

共育の丘だより 第2号 2015 冬

山口大学 大学教育機構 大学教育センター ニュースレター



「山口大学は、教えるだけの教育ではなく、

教員と学生、あるいは地域と一体となって

発見し・はぐくみ・かたちにすることで共に高め合い、

未来を拓く『共育』を目指しています」

『2014 山口大学案内』より

共育の丘（山口大学 吉田キャンパス）

巻頭言

文部科学省の平成26年度「大学教育再生加速プログラム（Acceleration Program for University Education Rebuilding: AP）」に山口大学の取組が採択されました。このAP事業は、大学教育改革を国として一層推進するため、教育再生実行会議等で示された新たな方向性に合致した先進的な取組を実施する大学を支援するというものです。本学が採択された「テーマⅠ（アクティブ・ラーニング）・テーマⅡ（学修成果の可視化）複合型」の取組には、88件の申請があり、21件が採択されました。本学では、この取組において、正課教育と正課外教育の共創により、共通教育を中心としたアクティブ・ラーニングを推進し、先導的な学修成果可視化モデルの構築を行っていきます。

また、本学では、平成27年4月に新たな学部「国際総合科学部」を設置する予定です。この学部では、ディプロマポリシーと各授業科目の位置づけを明確にして、修得した能力を可視化することで、学生が自分の到達度を確認しながら、自主的に自らの学修プランを立案することのできる独創的な「山口大学能力基盤型カリキュラムシステム（Yamaguchi University Competency-Based Curricular System: YU CoB CuS）」を導入する予定です。このYU CoB CuSについては、国際総合科学部以外の学部にも今後導入していくことが計画されていますが、大学教育センターには、YU CoB CuSの全学的な導入に当たって、中心的な役割を果たすことが求められています。（糸長 雅弘 山口大学 大学教育機構 大学教育センター長）

INDEX

- P1 巻頭言
- P2 大学教育センターの動き
- P3 潜入！！学部長室！～理学部編～
- P4 YAMADAI NEW WAVE!
- P5 教育改善学生交流「i*See」参加記
- P6 学生FDサミット2014夏 参加記
- P7 やまぐち探訪記
- P8 学生FDスタッフ募集 & 編集後記

(2015.1.7)

大学教育センターの動き

FD・SDとは？

はじめに

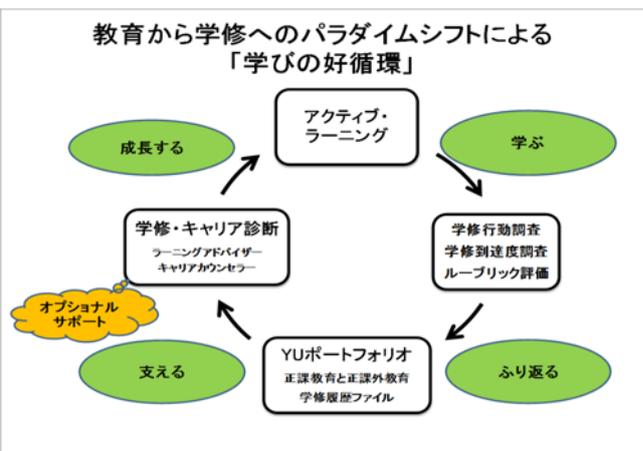
FDはFaculty Developmentの略称で、「教員が授業内容・方法を改善し向上させるための組織的な取組」を指します。SDはStaff Developmentの略称で、「事務職員や技術職員など職員を対象とした、管理運営や教育・研究支援までを含めた資質向上のための組織的な取組」を指します(中央教育審議会答申・用語集より)。

2014年度は、「学びの好循環」元年！

今年度、文部科学省大学教育再生加速プログラム（テーマⅠ（アクティブ・ラーニング）・Ⅱ（学修成果の可視化）複合型）、及び国立大学改革基盤強化促進費の採択を受けて、教室内外におけるアクティブ・ラーニングの推進はもとより、アクティブ・ラーニングに対応した学修環境の整備を行っています。教育から学修へのパラダイムシフトを図りながら、学生のための「学びの好循環」を創り上げていきます。

昨年度から取り組んできた、初年次教育科目『山口と世界』のコモンルーブリック（複数の授業担当者間が共有すべき規準を定めたルーブリック）が完成しました。コモンルーブリック開発においては、大学教育学会の支援を受けて、本学における学修成果測定の実質化に向けた第一弾の取組として推進してきました。同科目における到達目標や成績評価の標準化を目的に、コモンルーブリック開発のためのFDワークショップを3回開催し、今年度後期から実践活用を始めています。

2014年8月には、本学において全学FD・SD講演会「障害者差別解消法施行に向け、大学としての対応を考える－合理的配慮とは何か、支援体制を再考する－」が行われ、今後の障害学生支援体制のあり方について学ぶ有意義な機会となりました。同講演会は、大学コンソーシアムやまぐちが共催となり、山口地域の公立・私立大学からの参加者も大勢を数え、関心の高さが窺われました。



教育改善FD研修会風景



教育改善FD研修会 での意見交換

今年度、各学部等における教育改善FD研修会では、2016年の障害者差別解消法施行に向け、本学の障害学生支援の現状と課題について意見交換を行っています。

共通教育や専門教育における学修形態の特性に応じた学生対応、グローバル化の進展の中での外国人留学生への対応といった注意点などについて説明が行われ、当該意見交換を踏まえながら、学内における障害学生支援体制や基本方針の見直しを図っていきます。

潜入！！

学部長室！～理学部編～



今回のインタビューにご協力いただいたのは、山口大学理学部長である 松野浩嗣 先生です。
たくさんのお話を聞かせていただきました！



理学部は基礎を学ぶところ

理学部の特徴について教えてください！

工学部や農学部は、社会にある問題を解こうと、その問題を解くために考えます。しかし理学部は、「役に立つかどうか」ではなく「基礎を学ぶ」という意識が強いです。もちろん何に使えるか、ということは大切ですが、材料の性質を調べたり、新しいものを発見したりすることに軸足を置いています。

！ 今後に期待してください

理学部における海外との連携取り組みはありますか？

工学部はグローバル教育に力を入れていたり、農学部は東南アジアの国々と連携していたりします。しかし理学部は、他学部比べて海外と連携した大きな事業もなく、留学生も少ないです。

そこで、昨年度から学生を海外に送るプログラムが始まりました。さらに前年度は理学部の英語版パンフレットや英語版ホームページを作成しました。現在はこれように足元を固めていますが、今後は海外の連携先を増やすなどさらに力を入れていく予定です。

学生へのメッセージ！



勉強をして道具の使い方を覚えると同時に、人としての力を身につけてほしいと思います。つまり自分でものを考えて、自分で判断して問題解決できるような力のことです。

勉強ばかりしている学生は、いざ研究するときに「自分で出来ることしかやらない」という傾向が見られます。できないことに対して、どうやったらできるのか、その方法を考えられるかが重要です。その力は道具の勉強だけして得られるものではありません。学校の勉強だけでなく、サークル活動やアルバイトにもしっかり参加してみてください。

地域貢献

他大学の理学部と比べたとき、本学理学部に見られる特徴やユニークな取り組みはありますか？

小中学生にサイエンスのおもしろさを伝える「サイエンスワールド」というものがあります。今年は1000人超の参加がありました。このような地域貢献の取り組みは他の大学では見られないものだと思います。

今後は小中学生に対してだけでなく、高校生に対してサイエンスのおもしろさを伝えていきたいと考えています。現在は県の科学好きの高校生が情報交換をするためのSNSを立ち上げる取り組みが、県の教育委員会と連携して動き出しています。

「道具」の違い

文系教育との違いはどのようなものでしょうか？

基本的に理系は数式や記号などで論理的に表現できるものを扱います。いろいろなことを複合して考えなければならないので、文系の方が複雑かもしれません

理系の教育では、実験や調査をするための道具の使い方を教えています。数式もその一つです。ものを作ったり科学をするときには道具が必要ですが、この道具の使い方を教えることが理系教育の大きな柱になっています。

YAMADAI NEW WAVE!

共育ワークショップ2014『みんなで山大の教育（共育）について語ろう！』

私 は、2014年9月22日（月）開催の共育ワークショップ2014に、準備委員会のメンバーとして参加させていただきました。

昨年の共育ワークショップにも一般参加させていただいており、とてもいい経験になったと思っていました。準備委員会のお話を聞いたときは、昨年よりもより一歩深まった参加ができることがうれしかったです。今回は「発見し、育み、かたちにする」ということについて考えるという内容でした。

今までそういう理念があることは知っていても、それについて深く考えることがありませんでした。私がこの言葉を見たときに抱いたイメージは、個人個人が自分の短所長所に気づいて、短所は改善し長所は伸ばしていき、どんどん成長していくというようなものでした。

ですが、グループの教職員の方や学生と話していると、日常生活の中で発見したことを研究していく、読書をする中で気づいたことを自分なりに深めていくというようなイメージを持っている人もいました。同じ言葉であっても、人それぞれ持つイメージは違うのだなと改めて実感しました。

普段、学生と教職員が自分の考えていることを共有する場面はありません。そして、学生が教職員に対して持っているイメージとして、「少し距離感がある」といったことがまず挙げられるのではないかと思います。教職員の方も、学生が何を求めているのか分からない、学生がなにを考えているのか分からないといったようなことを講義などで聞くことがたまにあります。

同じ山口大学を構成する者同士が分かり合えていない状況は、あまり良いものではありません。そういう状況の中で行う共育ワークショップは、直接顔を合わせて何を思っているかを言い合うことができる良い場だと思います。

そのような場に参加させていただいて、本当に貴重な経験をすることができました。夏休みも終わり、後期が始まっています。今回の経験を生かしながら、残りの大学生活を充実したものにしていければと思います。ありがとうございました。

（共育ワークショップ2014準備委員会メンバー
人文学部2年 佐田 友菜）



1日のタイムスケジュール！

日時：2014年9月22日（月）

場所：山口大学総合図書館 アカデミックフォレスト

13:30~13:35 開会挨拶・趣旨説明

13:35~14:05 基調講演「みんなで創り上げる大学」
一般社団法人 KSIA（関西学生発イノベーション創出協議会）常務理事 山下 貴弘

14:05~15:10 グループワーク①

「『発見し・はぐくみ・かたちにする』について考えよう！」

※教員、職員、学生混合のグループワーク
≪15:10~15:20 休憩≫

15:20~16:00 グループワーク②

「未来新聞づくり」グループアイデアをかたちにしよう！

16:00~16:50 全体発表

16:50~17:00 クロージング・閉会挨拶

教育改善学生交流 i*See2014 参加記

2

2014年9月13日(土)、14日(日)の二日間、岡山大学にて第10回教育改善学生交流、i*See 2014が開催されました。本年度のテーマは『全日本授業評価アンケート決定戦！～形だけのアンケートから、機能するアンケートへ～』であり、このテーマのもと、全25機関より集まった計101名の参加者が熱い議論を展開しました。

一日目には全体議論が行われ、16大学のアンケートの様式、実施方法、実施後の活用状況などについて各大学の代表者に対する質疑を含めながら、その実態を参加者全体で共有しました。ここで挙げられた問題点を踏まえ、授業評価アンケートの改善について求められることについて議論を行うことで、翌日のグループ議論に向けた意見交換が行われました。二日目のグループ議論では、参加者が14グループに分かれ、各グループが1大学ずつを担当してアンケートの改善案について話し合いをしました。ここでの話し合いの結果は全体の報告会にて発表・質疑応答を通して参加者に伝えられ、クリッカーを用いた投票により「機能するアンケート」No.1が決定されました。

二日間の議論の中で、山口大学の授業評価アンケートの改善点として質問用紙と回答用紙が別であるため答えにくい点、授業最終日のみの実施では受講生に対するフィードバックがない点、結果の公表およびその後の改善の有無が不明瞭な点などが挙げられました。今後、授業評価アンケートを山口大学の教育改善により役立てるためには、i*See 2014参加者が中心となってアンケートの改良を図ることが必要であると言えます。

(学生FDスタッフリーダー (理学部3年) 杉元 茜)



参加者からのたより

今回縁あって初めてこのようなイベントに参加しましたが、とても勉強になることばかりでした。今回のテーマは「授業評価アンケート」でしたが、山口大学の授業評価シートと他大学のものを比較することで、山口大学の特徴や改善点を知ることができました。当たり前になっていた「授業評価」について考え直す良いきっかけになったと思います。また、他大学の学生や教職員の方とお話したり議論したりすることはとても刺激になり、多くのことを学ばせていただいたように思います。

初めて飛び込んだ世界で緊張の連続でしたが、とても楽しかったです。今回の経験を大切に、他の学生に伝えていくとともに、今後に生かしていきたいと思っています。

(学生FDスタッフ (教育学部3年) 福屋 里紗)



学生FDサミット2014夏 参加記

春

に引き続き学生FDサミットに参加するため京都産業大学に行ってきました。

今回のサミットは全国から約60校、教職員・学生を合わせて480名の参加となりました。テーマは「あなたがキツク未来」、京都産業大学のFDスタッフのAC燦の皆さんを中心に開かれました。

まずは8月23日のサミット1日目、この日はオープニング、ポスターセッション、しゃべり場、懇親会が行われました。ポスターセッションでは、各大学での活動をポスターにまとめ発表しあう他、ポスター総選挙も行われました。私も他大学のポスターを拝見して全国の学生と話し合ったり山口大学の活動を説明したりと2時間があっという間でした。

そこからしゃべり場へ。しゃべり場では学生、教職員が6～7人のグループに分かれ大学の良いところ、悪いところ、それを改善するためには何ができるかを話し合いました。思いついたことを付箋にかいて模造紙に貼っていくのですが私の班はもう貼る場所がないくらいの意見が出て盛り上がりました。



夕方の情報交換会では、立食形式で皆さんと交流です。昼の企画で知り合った方々と盛り上がりました。このような活動をしている学生はみんなコミュニケーション能力が高く、自分からどんどん話しかけに行きます。教職員の方は学生との距離が本当に近く話しやすかったですね。

続いて2日目では分科会という新企画が催されました。これは5つのテーマのグループワークがありそれぞれ好きなところに行き議論をするというものです。

「学生FDはじめてみました」、「一目瞭然！みんなで貼ろう授業アンケートのイイネ！」、「これさえあれば安心！学生FD広報ガイド」、「ファシリテータのしゃべりバナレに次の一手」、「学生

FD七転び八起記～こんな失敗しちゃうダメよ～ダメダメ！～」どれも个性的に興味をひきましたが私は「これさえあれば安心！！学生FD広報ガイド」に参加しました。これは4人の班を作りどうすればFDの広報やFDスタッフの勧誘ができるかを話し合い、出た意見をスマホで転送し全員の意見をまとめたデータを作ろうというものです。どうしても固いイメージが付きがちなFD活動をどのようにしてその面白さを伝えていか、真剣に考えました。

そしてよいよ最後の企画「未来への招待状」。大ホールに全員で集まりこれからの大学、そして学生FDの未来についてグループワークを行いました。山口大学は他校と比べてどうなのか？本当に良い大学とは？どうすればそうなれるのか？この2日間を通して私は各大学の良いところ悪いところに触れました。まずは知ることが学生FDの始まりだと思います。他校にはこんな良いところがあり、自分の大学でも取り入れたい。そう感じた私の思いを山口大学に持ち帰り、大学は学生の手で変えていけることを伝えることができると考えます。

(学生FDスタッフ(経済学部2年) 奥田 真也)

2日間のタイムスケジュール	8/23(土)	8/24(日)		
	10:30~12:00	オープニング	10:30~11:30	オープニング
	12:00~13:00	昼食	11:30~12:45	昼食
	13:00~15:00	ポスターセッション	12:45~15:00	分科会
	15:30~17:00	しゃべり場	15:00~16:00	新企画
	17:30~19:00	懇親会	16:00~16:30	エンディング

私

は学生FDの活動に関わり始めて日が浅く、「学生FDとは、学生が主体となって行われる教育改善活動である」といった
カタチ認識以外はまだぼんやりとしたイメージしか掴めていませんでした。このままでいいのか？いやよくない。他の大学の学
生FD活動はどんなものがあるだろう？そもそも、学生FD活動をわざわざ学生がやることの意義ってなんだろう？そんな疑問を抱え
てサミットに臨むことになりました。

サミットは学生主体なだけあり、たくさんの企画が意欲的に取り組めるような工夫がされていて素直に「すごい！」と思いました。ま
た、サミットの終わりに「未来の学生FDの姿とは？」という問いを投げかけられました。実にいろんな企画がありましたが、これが一番
私がサミットに参加する前に抱えていた疑問の答えにつながった気がします。

今回のサミットを通じて私は、未来の学生FDのあるべき姿、最終地点とも呼ぶべき姿とは「学生FDという言葉がなくなること」な
のではないかと思います。教育は指導する側だけでは成り立たないし、指導を受ける側だけでも成り立ちません。教育は指導側と受
ける側、両方のものなのです。ならば教育をよりよく変える責任も両方にあるのではないかと思います。学生FDは授業を受ける姿
勢において当たり前のことという認識が広まり、学生一人一人が当たり前のように教育をよくするための意見を出せるようになること、
最終的に学生FDという言葉がなくなるのが学生FDの
最終地点なのではないかと思います。そのため今私た
ちがやるべきこと。その多さを考えると目が眩みますが、俄
然やる気が出てきました。

(学生FDスタッフ(理学部3年) 朴 珉嬌)



やまぐち探訪記 第二回

(萩明倫館跡 現・明倫小学校)

この夏、萩市内を探訪してみました。これまで何度か訪れた街ですが、萩といえば、白壁や黒塀が美しい町並みの城下町エリア、
松陰神社、伊藤博文旧宅などに足が向かいがちではないでしょうか。そこで、必見なのが、萩市役所向かいに聳え立つ萩明倫館跡、
現・明倫小学校です。現・明倫小学校内を見学すると、萩明倫館跡の石碑や南門など、当時の威厳が伝わってきます。

2015年、山口大学は創基200周年を迎えます。その起源である萩明倫館の面影を残す、これらの財産に改めて接し、歴史の
歩みを感じ取ってみたいかがでしょうか。山口大学の未来に向けた新たな一歩が開けてくることでしょうか。

大河ドラマ『花燃ゆ』の放映がよいよ始まりましたが、ここでは、萩明倫館を舞台にし
た読み物を紹介しましょう。小山ゆう著『おれは直角』という漫画です。20年ぐらい前に、
テレビアニメ化され、ご存知の方もおられるでしょう。長州藩・下級武士の家に生まれた
少年・石垣直角が、真の武士道を目指して、萩明倫館に入学し、繰り広げるドラマは
痛快です。ぜひ、読んでみてはいかがでしょうか。

やまぐち探訪は次回に続きます。



2014年度 学生FDスタッフを求む！ (登録制)



教員や職員と
一緒に大学を
良くしたい！

大学教育につ
いてもっと知
りたい！



大学教育センター 林 透
083-933-5067



林 透(担当教員)
toru-h@yamaguchi-u.ac.jp
杉元 茜(リーダー)
s040df@yamaguchi-u.ac.jp



<http://www.epc.yamaguchi-u.ac.jp/>



学生FDスタッフページ！



<https://www.facebook.com/yamadaiFD>

編集チーム

- 林 透
(大学教育センター准教授)
- 杉元 茜
(理学部3年、学生FDリーダー)
- 朴 珉嬌
(理学部3年、学生FDスタッフ)
- 奥田 真也
(経済学部2年、学生FDスタッフ)
- 福屋 里紗
(教育学部3年、学生FDスタッフ)

発行：
大学教育センター

(2015年1月7日 発行)

！編集後記！

編集しながら色々思い出して
懐かしくなったりしました。
(朴)

初めての事ばかりでとて
も緊張しました…！
(福屋)

今夏、リーダーに昇格しました！真面目にふざけな
がら「共育」を広めていきたいと思えます！
(杉元)

今までの活動を振り返り、ま
だまだこれからだと感じてい
ます。
少しでも多くの人に読んで
もらえるよう頑張ります！
(奥田)

大学教育は、大学教職員、学生、市民をつなげます